

LOVE 青ろう

平成30年12月7日 第13号

振り返りとは過去の自分と対話し
未来の自分にアドバイスすること

FCEトレーニングカンパニー 大司 奈緒 氏

青聾祭が終わった後の行事・・・高 技能検定、中高 中間テスト、全国卓球大会、中
宿泊学習、交流学习、小 なわとび大会、外部専門家による講演会等等・・・目が回るよ
うな日々。行事の合間に勉強している最近の学校。

スローガンを心に職員と子ども達が創った劇は「生きる力」となりこれからにつながる。

校長室だより11号の最後の一文。そのためには思い起こし、しみじみと浸り、言葉に
し自分の中で物語にし、少しずつ醸成していかなければならない。その時間が十分取れな
い。流れていくことを積み重ねても・・・という危惧。でも、この多忙な中、子どもたち
はちゃんと「過去の自分と対話し 未来の自分にアドバイス」していた。

10月20日土曜日、いよいよ青ろう祭の本番です。朝起きて、歯みがきをした後「げ
きの時は、がんばろう。」と思いました。車の中では、外のけしきを見ながら、
「げきの時きんちょうする。きんちょうしてもがんばろう。」
と思いました。

最後の4まくでは、ハンドベルを使って、カノンをえんそうしました。色と数字を
よく見たので、まちがえずにできました。

ときけい部として、気持ちをこめて話すことができました。小学部最後のげきは、
大成功だと思いました。

小学部 6年

最初は背景作り等の時に少しいらいらしたり、落ち込んだりすることもありました
が、お互いに気持ちを伝え合い、理解し合って、協力してきました。高等部のみんな
は、何かあっても、逃げないで積極的にアドバイスや意見を交わし合って、協力して
練習してきました。

私は、自分の意見を相手に伝える時に、遠慮してしまうところがあるけれど、優し
い言い方に変えて積極的に言ったり、相手の話を受け取ってどのようにしたら、上手
くできるかを考えたりすることができました。

卒業後も、この大切なことを忘れずに、相手の話を誤解せずに聞くようにしたり、
自分の考えを伝えたりして、職場の人と良い人間関係を築けるようにがんばってい
たいと思います。

高等部 3年

苦手なことに向き合った自分

本当は母の役が嫌でした。泣く演技をやるつもりでしたが、恥ずかしくてできなかったし、出来ないことがすごく悔しく泣いてしまいました。でも、三津谷先生と一緒に泣く練習をしたり、苦しそうな表情をする練習をしたりして、少しずつできるようになりました。

母の役が嫌で逃げたい、あきらめたい気持ちがたくさんありました。でも、高三が最後なので、あきらめないで一生懸命演技していました。

来年は三年生、最後なので後輩を引っ張って頑張りたいです。

高等部 2年

早く覚えなければと責任を感じて毎日必死に頑張った。そのせいで学校にいる間はいつも疲れていた。今考えると、みんなのことを信用していなかったようだ。自分一人でやらないように気をつけていたのに、いつも自分だけでやろうとしてしまう。そんな僕が大嫌いだ。

失敗を許せない。誰であっても。それなのに、劇が終わった後の僕は、とてもすがすがしい気持ちだった。一生懸命に頑張った後の満足感でいっぱいだった。けれど失敗したのに、何ですすがすがしいのだろう。よくわからないけれど、一人で抱え込まずにみんなを頼り、助けを求めることができたからではないだろうか。

中学部 3年

「弱虫・涙」

幕が開き、スポットライトを浴びた。ありのままの姿をさらけ出そうと勇気を振りしぼり、大きな声で言った。

僕は昔から「弱虫」で「泣き虫」だった。嫌なことがあると、いつも泣いていた。こんな自分はもう嫌だった。こんな自分を変えたい。強くなりたいと思った。だから、二つを乗り越えて中学部を卒業したかった。

大きな声で言い放った。自分の弱いところを全部吐き出した。

悔いは残らなかった。そして、高等部の生徒会役員の三人には感謝の気持ちでいっぱいだ。生徒会役員として様々な経験をすることができた。本当にありがとう。

中学部 3年

※本当は全員の作文を載せたいくらいです。御来校なさった時はどうぞ一人一人の作文に目を通し、声をかけていただければ幸いです。

2018年 心に残ったできごと ベストスリー

12月3日 月曜日 全校朝会で共有しました。

「青龔祭」を1位に選んだ子供たち、職員がとても多かったです。その理由の中には

協力 励まし合い 努力 みんなで 気持ちを合わせて 感動 涙

等の言葉が。一つのことをやり遂げた自分たちを誇りに、そして、できるという自信に。

生徒会役員は もうすぐ新メンバーとなります。